

ジャパンペール(本社・大阪市西区)は国内最大手のペール缶メーカー。安全性や気密性、ハンドリング性に優れたペール缶を、石油製品や化学品・塗料など幅広い分野に供給している。学校や企業イベントの記念品などとして1缶から発注できるオリジナル缶も製造。産業用途にとどまらず、一般消費者向けの展開にも注力している。

同社は2024年度から、キーワード「シンカ」を軸にした経営計画をスタートさせた。24年を「深化」、25年を「新化」、26年度を「真価」とし、ジャパンペールブランドを磨きながら、リーディングカンパニーとして新たなフィールドに挑戦する。橋本克典社長は「当社の成長だけでなく、これからの業界のために自分たちは何ができるのかを考え、機能や価値を提供し

ジャパンペール

課題解決力ナンバーワンへ メタルワングループの総合力 8

ていきたい」と話す。

足元の需要環境は変化しており、国内製造業を取り巻く事業環境の変化を背景に、石油製品向けなどは減



橋本 社長



とコラボした学生と「ペールアート」を学ぶデザイン

している。同社の強みであるクリーンな製造体制を生かし、デジタルサイネージや自動車機・薄板BU長は、「ジャパンペール」はペール缶のトッパメーカーであり、東西の製造拠点を軸に高品質な供給体制を維持し、幅広い産業分野に製品供給を通じて貢献している」と話し、一缶から受注可能な「デザイン缶」や防災用途の製品開発など、「消費者(コンシューマー)に近い領域での事業展開も大きな特色。市場の変化に柔軟に対応しつつ、ペール缶の知名度向上を図ることで、プリキ需要の底上げにも貢献していきたい」とする。身近な製品を通じて鉄鋼素材の価値を伝え、事業基盤の更なる強化および深化(シンカ)を推進していく。(高嶽颯良、伊藤健)

リーディングカンパニーとして「シンカ」発揮

市場変化に対応、新分野の需要模索

少傾向。他容器(ドラム缶)変更に伴う中間在庫の廃棄(等)への置き換わりもみられ、廃ロス削減に貢献が出来る。その中で、同社は付加価値の創出に注力。デザイン変更に対応でき、柔軟な航空燃料(SAF)へ対応する際、回収・保管する「ラベル缶」は、デザイン用途としてペール缶を提案創出に向けた潤滑油のよう

